

【ボツリヌス治療外来】

当院では、脳卒中などにみられる後遺症「痙縮（手足の筋肉のつっぱり）」に対するボツリヌス治療を行っています。

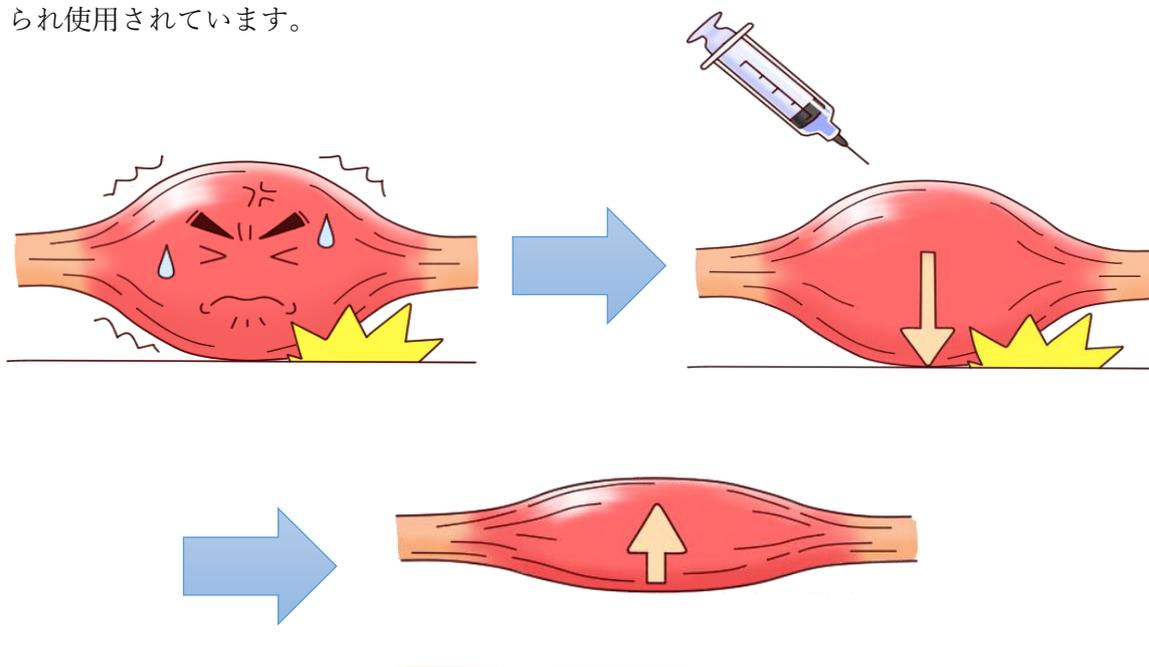
○痙縮とは

脳卒中の後遺症でよくみられる障害の一つに「痙縮（けいしゆく）」という症状があります。痙縮とは筋肉が緊張しすぎて、手足が動かしにくかったり、勝手に動いてしまったりする状態のことです。手指が握ったままとなり開きにくい、ひじが曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状がみられ、生活の支障となります。脳卒中の発症後、時間の経過とともに現れるのが特徴です。

痙縮は脳卒中の発症後、3か月で約2割、6か月で約4割の確率で発症すると言われています。また、脳卒中だけでなく、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、多発性硬化症などの病気でも現れます。

○ボツリヌス治療とは

ボツリヌス治療は、ボツリヌス菌（食中毒の原因菌）が作り出す天然のたんぱく質「ボツリヌス毒素」を有効成分とする薬を使用し、痙縮に対して行う治療法です。緊張した筋肉に薬剤を注射して痙縮を軽減させます。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。この治療法は、世界80カ国以上で広く認められ使用されています。



○期待できる治療効果

筋肉が柔らかくなることで、日常生活の改善や介助量の軽減に期待ができます。

【当院での患者様の声】

- 「手が開きやすくなり、物を掴みやすくなった」
- 「歩きやすくなった」 「装具が履きやすくなった」
- 「指がのびて洗いやすくなり、清潔をたもてるようになった」
- 「着替えが楽になった」 など・・・

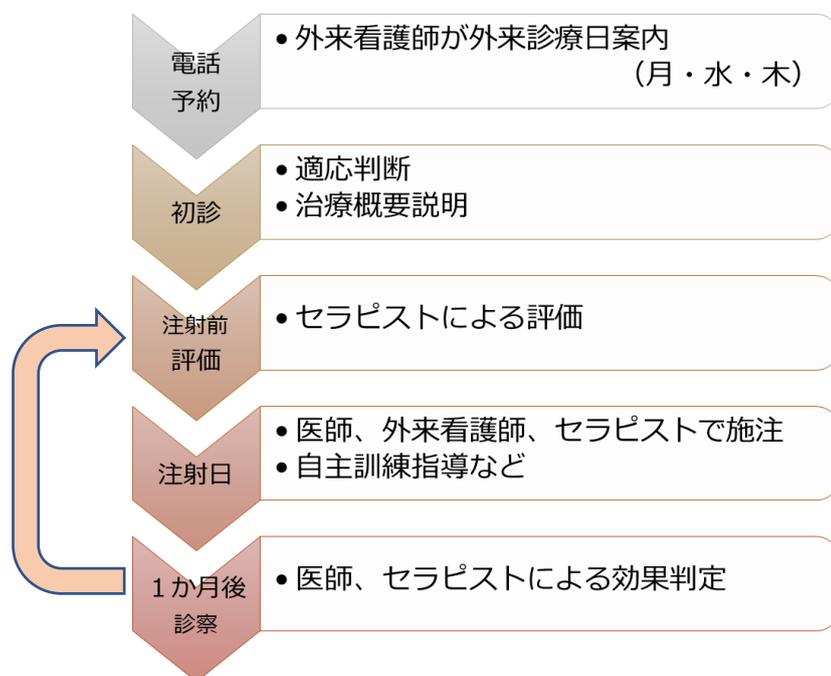
ボツリヌス療法によって筋肉が柔らかくなっても、薬剤の効果を得るためには、ご自身でのストレッチや、理学療法・作業療法などのリハビリテーションと合わせて治療を行うことをお勧めします。

また、注射の効果は通常3ヵ月ぐらいで切れてきます。再び注射の効果を得るためには、繰り返し注射することになります。ただし効果が続く期間には個人差があるので、医師と相談しながら治療を進めていきます。

○当院でのボツリヌス治療の流れ

当院では3ヵ月毎(目安)の4回注射を1クールとし、初回は1クール治療を基本としています。患者様によって注射量が異なるため、適度な注射量を見極めるためです。

※ただし医師判断によりすべてがこの限りではありません。



※注射2回目以降は矢印のような流れとなります。

- 初診の際は、原則かかりつけ医の「診療情報提供書」が必要です。
- すでに他院で治療を受けている方は、治療経過が分かる診療情報提供書をお持ちください。

担当看護師が待ち時間の少ない診療曜日や時間帯をご案内させていただきます。

来院前に下記へお問い合わせください。

お問い合わせ 0947-44-0690

(病院窓口→ボツリヌス外来担当者(看護師)を呼出)